

「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」主な取り組みの評価一覧

■ 施策（7） 青少年の非行防止や自立・立ち直りの支援

		【Plan】計画				【Do】実施						【Check】評価	【Action】改善	決算	担当課	
施策番号	柱	取り組みNo.	取り組み名	事業概要	R2年度の取り組み計画	R2年度の主な実績	活動指標					評価	評価の理由(分析)	課題とそれを踏まえた今後の方向性	予算事務事業名	※大字が評価を記載した課
							区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度					
7	1	76	「北九州市『青少年の非行を生まない地域づくり』推進本部」の運営	<p>本市の非行対策を総合的に推進するため、「北九州市『青少年の非行を生まない地域づくり』推進本部」を運営する。（本部長：市長）推進本部には、三つの「対策部会」を設置。</p> <p>「対策部会」は、市（青少年課、安全・安心推進課等）・県警（少年課、薬物銃器対策課等）・法務省（保護観察所、少年鑑別所等）をはじめ、協力雇用主会、保護司会、ガーディアン・エンジェルス、少年補導員連絡協議会、PTA、医師・薬剤師会などの関係機関・団体が、①「非行防止対策」②「非行からの立ち直り支援」③「薬物乱用の防止と啓発」のための対策を検討し、実行する。</p> <p>併せて、構成機関・団体間の連携を深め、全市的なネットワークを形成することにより、非行対策の総合的な推進を図る。（④「地域団体・関係機関との連携強化」）</p> <p>※①～④：推進本部の施策の四つの柱</p>	①全市的なネットワークの構築	<p>地域団体・関係機関と連携・協力した全市的なネットワークによる取り組みの実現に向けた「非行防止対策部会」「立ち直り支援対策部会」「薬物乱用防止対策部会」を開催（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため書面開催）</p>	<p>合同部会開催回数</p> <p>【現状値】</p> <p>1回 (R元年度)</p> <p>【目標】</p> <p>現状維持</p>	<p>半年度目標</p> <p>現状値比同水準</p>	<p>半年度実績</p> <p>1回</p>	<p>達成率</p> <p>100%</p>	<p>計画目標</p> <p>100%</p>	<p>順調①</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会議自体は書面での開催となったが、関係機関や団体、地域等の情報共有・意識共有が図れた。</p>	<p>関係機関や団体、地域との連携をより一層推進し、効率的・効果的な事業実施を行い、「青少年の非行を生まない地域づくり」の実現を目指していく。</p>	北九州市「青少年の非行を生まない地域づくり」推進本部運営事業	子ども家庭局・青少年課
7	1	77	非行防止活動の推進	<p>過去からの取り組みにより、非行者率や再犯者率は大幅に減少傾向にあるが、全国平均と比較すると依然として高水準にある状況を踏まえ、市内小・中学生を対象とした啓発リーフレットの作成・配布等により、低年齢期からの非行防止に取り組む。</p> <p>また、本市の不良行為少年補導者人員の過半を占める“深夜徘徊”を防止するために、「声かけ深夜パトロール」の実施、「ガーディアン・エンジェルス」との連携等、より実効性のある取り組みを強化していく。</p>	①啓発リーフレットの作成・配布 ②声かけ深夜パトロールの実施	<p>①薬物乱用防止及びメディア・リテラシーに関する啓発リーフレットの作成・配布各65,000部</p> <p>②小・中学校の長期休業日に合わせ、市内全域を対象に「声かけ深夜パトロール」を実施</p>	<p>啓発リーフレットの作成・配布数</p> <p>【現状値】</p> <p>65,000枚 (R元年度)</p> <p>【目標】</p> <p>現状維持</p>	<p>半年度目標</p> <p>現状値比同水準</p>	<p>半年度実績</p> <p>各65,000枚</p>	<p>達成率</p> <p>100%</p>	<p>計画目標</p> <p>100%</p>	<p>順調①</p>	<p>啓発リーフレット等の配布を通し、子どもや保護者の薬物の危険性についての認識を高めることが出来た。また、深夜徘徊を防止するため、小・中学校の長期休業日に合わせたパトロールなどを実施した。</p>	<p>青少年を取り巻く環境が複雑化・深刻化する背景を踏まえつつ、関係機関・団体等とより一層の連携を図り、取り組みを推進していく。</p>	「チーム学校」運営・推進事業（補導対策事業補助） 北九州市「青少年の非行を生まない地域づくり」推進本部運営事業の一部	子ども家庭局・青少年課 教育委員会・生徒指導・教育相談課

「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」主な取り組みの評価一覧

■ 施策（7） 青少年の非行防止や自立・立ち直りの支援

施策番号	柱	取り組みNo.	取り組み名	【Plan】計画		【Do】実施						【Check】評価	【Action】改善	決算 予算事務 事業名	担当課 ※太字が評価を 記載した課		
				事業概要	R2年度の 取り組み計画	R2年度の 主な実績	活動指標						評価			評価の理由 (分析)	課題とそれを踏まえた今後の方向性
							区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度					
7	1	78	ネットトラブル等防止及びスマートフォンの適正利用の推進	インターネット上のウェブサイト等において、児童生徒の不適切な書き込み等を把握し問題の未然防止・早期発見を図るとともに、教職員に対する研修を行い、ネットトラブルの防止に努める。また、児童生徒のスマートフォンの所持率が年々増加している状況を踏まえ、スマートフォンの適切な使用について児童生徒や保護者への啓発に取り組む。 加えて、青少年が、SNSをはじめとしたコミュニティサイトなどをきっかけとする事件に巻き込まれるケースの増加を受け、メディア上の有害環境の危険性を啓発する取り組みを推進するほか、警察、青少年団体と連携した「メディア（ネット）・リテラン向上協議会」を設立するなどして、ネットやスマートフォンの適正な利用推進を図り、ネット被害やいじめの防止、スマートフォンやゲーム依存の防止啓発等、今日のデジタル社会に顕在化している様々な課題の解決に向けて取り組んでいく。	①(仮称)メディア・リテラン向上協議会の設置 ②啓発リーフレットの作成・配布	①メディア・リテラン向上推進会議を設置し、会議を行った。 ②啓発リーフレットの作成・配布を行った。	啓発活動等の実施	半年度目標 （仮称）メディア・リテラン向上協議会の設置	実施	実施	実施	実施	順調①	・警察、教育関係者、青少年団体、PTA等で構成される推進会議を立ち上げ、会議（書面）を開催した。 ・小学4年生から中学3年生の全児童・生徒へリーフレット「スマホ・ネット社会の危険」を配布、小倉駅前等の大型ビジョンを利用したメディア・リテランに関する啓発動画の放映等を実施した。	・推進会議における各機関の役割分担を明確にし、それぞれの特性と能力が十分発揮できるよう、具体的な連携協議を行っていく。 ・先行して取り組みを進めている福岡県と情報共有を図り、実効性のある取り組みを迅速に実施する。	「チーム学校」運営・推進事業（ネットトラブル等防止及び啓発・研修事業） 北九州市「青少年の非行を生まない地域づくり」推進本部運営事業の一部	子ども家庭局・青少年課 教育委員会・生徒指導・教育相談課
7	1	79	地域における青少年の見守り体制の充実	地域ぐるみで子どもを見守り、非行の防止や非行からの立ち直り支援、健全育成を図るための施策の充実に取り組む。 ○「北九州市少年補導委員」による補導・環境浄化活動 ○「北九州市青少年育成会協議会」による青少年の健全育成活動 ○北九州市青少年支援拠点「ドロップイン・センター」の運営による青少年への声かけパトロール ○「薬物乱用防止モデル地域事業」の推進 ○中学校区で青少年の非行防止に取り組む「地域会議」の推進 ○地域における「非行少年の立ち直り支援」「非行少年の居場所づくり」の推進 ○多世代農園事業などをはじめとした、地域ぐるみで行われる青少年健全育成活動の充実	①北九州市少年補導委員による補導活動 ②北九州市青少年育成会協議会による地域活動の実施	①1,536回 ②5回	北九州市少年補導委員による補導活動回数	現状値比 同水準	前年度比 同水準	前年度比 同水準	前年度比 同水準	前年度比 同水準	遅れ	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため補導委員による補導活動回数は減少したが関係機関や団体、地域等との情報共有等に努めた。	青少年を取り巻く環境が複雑化・深刻化する背景を踏まえつつ、関係機関・団体等とより一層の連携を図り、取り組みを推進していく。	北九州市「青少年の非行を生まない地域づくり」推進本部運営事業の一部	子ども家庭局・青少年課

「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」主な取り組みの評価一覧

■ 施策（7） 青少年の非行防止や自立・立ち直りの支援

施策番号	柱	取り組みNo.	取り組み名	事業概要	R2年度の取り組み計画	R2年度の主な実績	【Do】実施					評価	評価の理由(分析)	課題とそれを踏まえた今後の方向性	決算	担当課		
							活動指標											
							区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度						R6年度	
7	1	80	薬物の乱用防止に向けた広報・啓発	近年、覚せい剤や大麻の事案など新たな課題が生じている。市内のシンナー事犯等は撲滅され情勢は改善されてきたが、一方でインターネットやデリバリー販売など、水面下で青少年の身近に違法薬物が存在する脅威が発生している。こうした状況を踏まえ、市内小・中学生を対象とした啓発リーフレットの作成・配布や「薬物乱用防止モデル地域」を指定するなどとして、薬物の乱用を未然に防ぐための啓発やパトロールを行う。	①啓発リーフレットの作成・配布 ②薬物乱用防止パトロールの実施	①小学4年生から中学3年生を対象に啓発リーフレットを作成・配布：65,000部 ②パトロール回数 32回	啓発リーフレットの作成・配布数【現状値】	半年度目標	現状値比同水準	前年度比同水準	前年度比同水準	前年度比同水準	前年度比同水準	順調①	啓発リーフレット等の配布を通し、子どもや保護者の、薬物の危険性についての認識を高めることができた。また、学校の長期休暇期間中に合わせ街頭ビジョンを活用し、薬物の危険性に関する動画放映等を実施した。	全国的に見ると、インターネットやデリバリー販売などで、青少年が覚せい剤や大麻などを入手する、新たな薬物乱用の事案が発生している。これらの課題に対応するため、SNS等を活用した広報活動等、新たな試みを検討・実施していく。	北九州市「青少年の非行を生まない地域づくり」推進本部運営事業の一部	子ども家庭局・青少年課
							65,000枚 (R元年度)	実績	65,000枚									
							現状維持	達成率	100%									
							計画目標	達成率	100%									
7	2	81	北九州市青少年支援拠点「ドロップイン・センター」の運営	深夜はいかいを繰り返す青少年をさまざまな危険や誘惑から守り、その立ち直りを支援するため、はいかいしている青少年への声かけや相談対応、さらには警察や立ち直り支援機関との情報共有を図ることで非行や事件から青少年を守る、北九州市青少年支援拠点「ドロップイン・センター」を運営する。	①ドロップイン・センターによる声かけ、相談対応	声かけ件数：501件 相談対応件数等：101件	ドロップイン・センターが行う夜間パトロールでの声かけ件数【現状値】	半年度目標	-	-	-	-	-	順調①	コロナウイルス感染症拡大等の影響により、深夜はいかいを繰り返す青少年が減少したため、声かけ件数は減少したが、重篤化が懸念される事案については、警察をはじめ、立ち直り支援機関などの関係機関と連携し、迅速に対応している。また、深夜はいかいを繰り返す青少年の相談にのる居場所づくりにもなっている。	警察や関係機関との連携をより強化し、施設の運営を行っている。	北九州市「青少年の非行を生まない地域づくり」推進本部運営事業の一部	子ども家庭局・青少年課
							1,969件 (R元年度)	実績	501件									
							-	達成率	-									
							-	計画目標	-									
7	2	82	協力雇用主と連携した就労支援	非行歴のある青少年の就職促進や、その受け皿となる協力雇用主の拡充を、福岡保護観察所と協働しながら図っていく。また、協力雇用主が、雇用した少年から損害を受けた場合の「見舞金」制度や、「立ち直りを目指す非行少年への就労促進住居確保支援事業」などを実施することで、協力雇用主活動への支援と理解促進を推進する。	①幹事会・研修会の開催 ②協力雇用主見舞金制度の運用 ③協力雇用主住居確保支援制度の運用	①新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 ②活用件数 0件 ③活用件数 2件	協力雇用主登録事業者数【現状値】	半年度目標	現状値比増加	前年度比増加	前年度比増加	前年度比増加	前年度比増加	順調①	・新型コロナウイルス感染症拡大の中でも、協力雇用主の登録事業者数は維持できている。 ・協力雇用主が活動しやすい環境づくりに関する市の取り組みに対し、協力雇用主から高い評価を得ている。	・登録している協力雇用主の業種には偏りがあるため、今後は、非行歴のある青少年が就職先をより選定しやすく、就労意欲が生まれるよう、登録業種の拡充を図る。	北九州市「青少年の非行を生まない地域づくり」推進本部運営事業の一部 協力雇用主における「立ち直りを目指す非行少年への就労促進」住居確保支援事業	子ども家庭局・青少年課
							262社 (R元年度)	実績	267社									
							増加	達成率	102%									
							計画目標	達成率	102%									

「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」主な取り組みの評価一覧

■ 施策（7）青少年の非行防止や自立・立ち直りの支援

施策番号	柱	取り組みNo.	取り組み名	事業概要	【Plan】計画		【Do】実施						【Check】評価		【Action】改善		決算	担当課
					R2年度の取り組み計画	R2年度の主な実績	活動指標	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	評価	評価の理由(分析)	課題とそれを踏まえた今後の方向性		
					①非行相談に対応する	②非行相談連絡会議を開催する												
7	2	83	非行少年の立ち直り支援	非行少年の立ち直りと自立を促進するためには、「居場所」「就労」「就学」が効果的である。そのため、学校、警察、地域等と連携して非行少年に対する「就労支援」や「就学支援」を積極的に行うことで、非行少年の立ち直りを目指す。 また、教育委員会や警察等の関係機関と定期的に開催している非行相談連絡会議において相互連携をより推進し、教育・福祉の視点に立った取り組みを実施する。	①非行相談に対応する	②非行相談連絡会議を開催する	①67件	②6回	非行相談対応件数 【現状値】63件 (R元年度) 【目標】—	半年度目標 —	半年度実績 67件	達成率 —	計画達成率 —	順調①	・非行少年の立ち直りに向け、実務的かつ緊密な行動・情報の連携を行うため、関係機関と非行相談連絡会議を毎月開催し、教育・福祉的な視点に立った即時的な対応、連携した取り組みを図ることができたことから、「順調」とした。	【課題】 非行少年の立ち直りと自立の促進 【改善】 引き続き、関係機関や地域と密接に連携し、積極的に取り組む。	非行少年の立ち直り支援と体制強化事業	子ども家庭局・子ども総合センター
7	3	84	いじめ対策の充実	北九州市いじめ防止基本方針に基づき、いじめを適切に把握するとともに、児童生徒や学校・関係機関によるいじめ防止の取り組みを推進する。 ○「いじめ問題に関する実態調査（アンケート・面接）」の全校実施 ○教職員用の指導書「いじめ問題を見逃さないために」を用いた研修の実施 ○「北九州市いじめ問題専門委員会」による調査審議 ○「北九州市いじめ・非行防止連絡会議」による関係機関・団体との連携強化 など	①いじめに関する実態調査による状況把握と対応	②「北九州市いじめ問題専門委員会」による調査・審議	①全校実施	②2回実施	北九州市いじめ問題専門委員会の開催回数(回) 【現状値】3回 (R元年度) 【目標】3回	半年度目標 3回	半年度実績 2回	達成率 66%	計画達成率 66%	順調②	・いじめに関する実態調査は、9月を「いじめ防止強化月間」と位置づけ、全市一斉にいじめに特化したアンケート及び面談を実施している。 ・北九州市いじめ問題専門委員会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、第3回目の開催が難しかったため、書面やオンライン等での実施ができなかったため、第3回の影響で中止となった。	・いじめに関する実態調査は、9月の「いじめ防止強化月間」を継続して実施する。 ・北九州市いじめ問題専門委員会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、第3回目の開催が難しかったため、書面やオンライン等での実施ができなかったため、第3回の影響で中止となった。	「チーム学校」運営・推進事業の一部 スクールロイヤーの活用	教育委員会・生徒指導・教育相談課
7	3	85	長期欠席（不登校）対策の充実	児童生徒の人間関係づくりや小中連携による取り組みを推進することにより、長期欠席（不登校）の未然防止を図るとともに、関係機関やスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーと連携した対応により、長期欠席（不登校）の解消を図る。 また、ICTを活用し長期欠席（不登校）の児童生徒への学習支援に取り組む。	①一ギャップ解消に向けた小中連携の取組	②不登校児童生徒療育キャンプの実施	③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等による教育相談活動	①小中連携SUTEKIアンケート北九州版を活用し、「個の補強ポイント」に対する手立てをイントラナビに掲載した。また、読み取りソフトを市内全小中学校に導入し、アンケート分析等の負担軽減を図った。また、アンケートの結果を基に、SCが小学5年生の全員面接を実施した。 ②新型コロナウイルスのため、実施せず。 ③令和2年度 学校訪問、家庭訪問、関係機関訪問等の実施回数：24,834回	不登校児童生徒に対する学校外の機関（フリースクール、支援室等）で学習等を行い出席扱いとなった生徒の割合 【現状値】小学生19.2% (R1年度) 【目標】増加	半年度目標 増加	半年度実績 10月に全国一斉公表予定	達成率 —	計画達成率 —	順調②	①小中連携SUTEKIアンケートについては、各学校が取り組みやすいように読み取りソフトを導入したが、どの程度取り組まれているのか、アンケートの分析がどのように活用されているのか、どのような効果があったのかについて、検証できていない。各学校への更なる周知と検証が必要である。また、「欠席状況連絡票」を活用した小・中学校間の引継ぎについても周知・徹底していく。 ②不登校児童生徒療育キャンプについては、日程等を検討していく必要がある。 ③「北九州市立学校・園におけるスクールソーシャルワーカーの活用ガイドライン」を各学校・園に周知し、SSWの効果的な活用を促す。	「チーム学校」運営・推進事業の一部	教育委員会・生徒指導・教育相談課	

「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」主な取り組みの評価一覧

■ 施策（7）青少年の非行防止や自立・立ち直りの支援

施策番号	柱	取り組みNo.	取り組み名	【Plan】計画		【Do】実施						【Check】評価		【Action】改善	決算	担当課		
				事業概要	R2年度の取り組み計画	R2年度の主な実績	活動指標					評価	評価の理由(分析)	課題とそれを踏まえた今後の方向性				
							区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度						R6年度	
7	3	86	スクールカウンセラーの配置	長期欠席（不登校）やいじめ等の問題を抱える児童生徒および保護者への対応には、小・中学校等におけるカウンセリング等の機能の充実を図る必要がある。このため、教育相談に関する高度で専門的な知識・経験を有する臨床心理士等の「心の専門家」であるスクールカウンセラーをすべての中学校区及び特別支援学校にて活用し、生徒指導上の諸問題の未然防止・早期対応を図る。	①全中学校区（小学校129校、中学校62校）、特別支援学校（8校）での活用。 ②小学校5年生全員面接の実施。 ③全小学校6年生と中学校2年生への自殺予防教育の実施。	①全校で活用 ②全校実施 ③小学校：全校実施 中学校：全校実施	スクールカウンセラー相談件数	半年度目標	-	-	-	-	-	順調①	・新型コロナウイルス感染症による休校等の影響から、相談件数が伸びなかった。 ・新型コロナウイルス感染症への不安感等、子どもたちの心のケアに対して、スクールカウンセラー（SC）が対応できる体制を整えた。 以上のことから「順調①」と評価した。	・悩みや心の不安を抱えたまま相談できない児童生徒への対応をさらに進めるため、スクールカウンセラーに相談しやすい環境・体制を整備する。 ・「小学校5年生全員面接」「全小学校6年生と中学校2年生への自殺予防教育」実施の充実を図る。	「チーム学校」運営・推進事業の一部	教育委員会・生徒指導・教育相談課
7	3	87	スクールソーシャルワーカー活用事業	長期欠席（不登校）、いじめ等の児童生徒に係る問題行動解消や児童虐待の対応のため、社会福祉士や精神保健福祉士の資格を有し、専門的な知識を有するスクールソーシャルワーカーを配置して、児童生徒への直接的な働きかけとともに家庭環境への働きかけなど、福祉的視点から支援活動を行う。 今後、学校常駐型、いわゆる「配置型」スクールソーシャルワーカーも含めた体制の充実を検討する。	①スクールソーシャルワーカーの増員による体制の充実 ②福祉的視点による積極的な支援活動の実施	①令和元年度から2名増員することができた。 ②学校訪問回数等、令和元年度より上回ることをできた。 ○「北九州市立学校・園におけるスクールソーシャルワーカーの活用ガイドライン」を作成した。	学校訪問、家庭訪問、関係機関訪問等の実施回数	半年度目標	-	-	-	-	-	順調①	・昨年度、3月にSSW活用のガイドラインを作成し、SSWを効果的に活用するポイント等についてまとめ、学校に提示することができた。 ・新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中、前年度の学校訪問回数等を上回ったことから、「順調①」と評価した。	・要請を受けてから派遣する「派遣型」にとどまらず、問題の早期発見・対応を行うため、一部の人員を学校に配置する「配置型」について検討していく。 ・経験年数が3年未満のSSWが5割を占める中、SSWリーダーを中心に、全体の連携強化やOJTの推進を図る。また、SSWの増員についても、検討していく。	「チーム学校」運営・推進事業の一部	教育委員会・生徒指導・教育相談課
7	3	88	少年支援室の運営	不登校やひきこもり、非行等の悩みを抱える少年に対し、通所を通して生活習慣の確立や自学自習、集団適応指導等のさまざまな少年の状態に応じたきめ細かな支援活動を行い、学校や社会への復帰を図る。	①面接や電話での相談に対応する	①面接・電話相談対応件数 37,656件	相談件数	半年度目標	-	-	-	-	-	順調②	・不登校や非行等の少年の通所施設として、社会や学校への復帰をめざし、生活習慣の確立や自学自習のための援助を行った。 ・コンビニやカラオケボックスなどへの立入調査を行うなど、少年非行防止の啓発活動も積極的に取り組んだことから「順調」とした。	【課題】 ・これまでの活動を着実に進めるとともに、さらに効果的な運営を図る必要がある。 【改善】 ・少年支援室の設備・環境・機能の充実を図る。	少年支援室運営費	子ども家庭局・子ども総合センター

「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」主な取り組みの評価一覧

■ 施策（7） 青少年の非行防止や自立・立ち直りの支援

施策 番号	柱	取 組 No.	取 組 名	【Plan】計画		【Do】実施					【Check】評価	【Action】改善	決算	担当課					
				事業概要	R2年度の 取り組み計画	R2年度の 主な実績	活動指標	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度			R6年度	評価	評価の理由 (分析)	課題とそれを踏まえた今後の方向性	
									現状値比 増加	前年度比 増加	前年度比 増加	前年度比 増加			前年度比 増加				
7	3	89	不登校状態の子どもに寄り添った次への一歩応援事業	不登校状態にある中学生を対象に、卒業後、本人やその家族が社会から孤立せず、「次への一歩」を踏み出すことができるよう、中学校卒業前の段階からNPO法人等を活用した専門スタッフによるアウトリーチ（訪問支援）等を通じて、一人ひとりに寄り添った伴走型支援を行う。	①アウトリーチ(訪問支援等)を通じた中学生の支援	支援者数 34人	改善が見られた人数	半年度実績	16人						順調①	専門スタッフによる、子どもたち一人ひとりの状況に応じたきめ細かな支援を行った結果、状況の好転（改善）が見られた生徒数が増加した。	学校や少年支援室等、関係機関とのさらなる連携強化に努め、引き続き一人ひとりにきめ細かく支援を行い、社会的自立に繋げていく。	不登校状態の子どもに寄り添った次への一歩応援事業	子ども家庭局・青少年課
7	4	90	若者のための応援環境づくりの推進	若者向けホームページや「北九州市子ども・若者支援地域協議会」の運営、ユースアドバイザー養成講習会の開催など、若者を総合的にサポートする環境づくりを推進する。	①「YELL」のHPの充実 ②ユースアドバイザー養成講習会の開催	①会議の開催：3回 ②新型コロナウイルス感染症の影響により中止	「YELL」での新規来所相談者数	半年度実績	146人	111人					順調②	・新型コロナウイルスの影響で新規相談者数は減少したが、北九州市「子ども・若者支援地域協議会」の開催等により、関係機関や団体、地域等の情報共有・情報提供が図れた。	・『子ども・若者支援機関マップ』の改訂等により、市内の学校への広報を強化し、より多くの若者を支援する。	若者のための応援環境づくりの推進事業の一部	子ども家庭局・青少年課
7	4	91	子ども・若者応援センター「YELL」の運営	子ども・若者応援センター「YELL」を拠点とし、社会生活を円滑に営む上で困難を抱えている子どもや若者の自立を応援・支援する。また、利用者の利便性の向上を図るため、YELL出張相談の実施を検討する。	①相談対応 ②出張相談等の相談方法の着手	①来所相談件数1,470件 ②出張相談等の相談方法については検討中	「YELL」での相談件数	半年度実績	1,442件	1,470件					順調①	新型コロナウイルス感染症対策として、新たにZOOMを活用したプログラムを取り入れた。	・『子ども・若者支援機関マップ』の改訂等により、市内の学校への広報を強化し、より多くの若者を支援する。	子ども・若者応援センター「YELL」運営費 子ども・若者応援センター「YELL」管理費	子ども家庭局・青少年課

「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」主な取り組みの評価一覧

■ 施策（7） 青少年の非行防止や自立・立ち直りの支援

		【Plan】計画				【Do】実施						【Check】評価	【Action】改善	決算	担当課		
施策番号	柱	取り組みNo.	取り組み名	事業概要	R2年度の取り組み計画	R2年度の主な実績	活動指標					評価	評価の理由(分析)	課題とそれを踏まえた今後の方向性	予算事務事業名	※大字が評価を記載した課	
							区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度						R6年度
7	4	92	ひきこもり地域支援センター「すてっぷ」の運営	ひきこもりの問題を抱えた当事者や家族等の電話相談や来所相談、訪問支援、フリースペース等を提供することで、ひきこもり当事者が社会に参加し、いきいきと自分らしく暮らせることを目指す。	①ひきこもりの問題を抱えた当事者や家族等の相談業務 ②フリースペースの提供	①ひきこもりの問題を抱えた当事者や家族等からの相談延べ件数 2,517件 ②フリースペースの開催 93回	相談延べ件数	半年度目標	現状値 比同水準	前年度比 同水準	前年度比 同水準	前年度比 同水準	前年度比 同水準	順調①	・ひきこもりの問題を抱えた当事者、家族等からの相談に対応し必要な支援等を行い、前年度を上回る相談件数となっている。 ・利用者のニーズに沿った事業を継続するため、前年度に引き続き、来所相談、電話相談等相談対応、フリースペースの提供を実施する。		
							【現状値】	実績	2,517件								
							【目標】	達成率	101.3%								
								計画達成率	101.3%								
7	4	93	ひきこもり対策事業	さまざまな要因によって社会的参加の場がせばまり、自宅以外での生活の場が長期にわたって失われているひきこもりの中でも、背景に精神疾患や発達障害がないとされる「社会的ひきこもり」の状態にある人たちが自立できるよう支援と体制づくりを目指す。	①支援者向け研修会開催 ②市民向け講演会開催 ③家族教室開催 ④実務者連絡会の開催	①支援者向け研修会 34名参加 ②市民向け講演会 83名参加 ③家族教室 延34名参加 ④実務者連絡会 17名参加	家族教室の参加者数(延べ)	半年度目標	現状値 比同水準	前年度比 同水準	前年度比 同水準	前年度比 同水準	前年度比 同水準	やや遅れ	・家族教室の参加者の減少は新型コロナウイルス感染症感染予防等が影響したものと考えられる。 ・家族教室の参加者数は目標を下回ったが、参加者の孤立化の予防につながっている。 ・各事業とも関係機関との連携を取りながら進めている。		
							【現状値】	実績	34名								
							【目標】	達成率	48.6%								
								計画達成率	48.6%								
7	4	94	「若者ワークプラザ北九州」の運営	「若者ワークプラザ北九州」において、概ね40歳までの求職者に対し、就職関連情報の提供や就業相談、職業能力向上のための講座、希望や適性に合った職業紹介等の実施により、若年者の就業を促進する。	①求職者と企業のミスマッチ解消のため、市内企業の紹介、適性診断などにより求職者と市内企業のマッチングに努める。 ②大学への訪問や市内在住者へのPRを行い、新規利用者の獲得を目指す。 ③セミナーの内容や開催頻度等の見直し、求職者のニーズに沿ったものを実施する。	①求人企業開拓数(406人)、求人開拓数(719人) ②新規来場者数(1,212人) ③ミニセミナー受講人数(358人)、ミニセミナー開催回数(125回)	就職決定者数(人)	半年度目標	現状値 (1,200人) と同水準	1,200人	1,200人	1,200人	1,200人	順調②	新型コロナウイルスの影響により出張セミナーが中止になるなどの原因で、来場者数が対前年比67.9%減少したものの、丁寧かつ質の高いカウンセリング等を行った結果、一定程度の就職決定者数を維持することができた。 雇用情勢は予断を許さないが、オンラインを活用したカウンセリングやセミナーを強化することで目標達成に取り組んでいく。	若者ワークプラザ北九州運営事業 若者ワークプラザ(光熱費等) KIPRO賃借料	
							【現状値】	実績	776人								
							【目標】	達成率	64.7%								
								計画達成率	64.7%								